

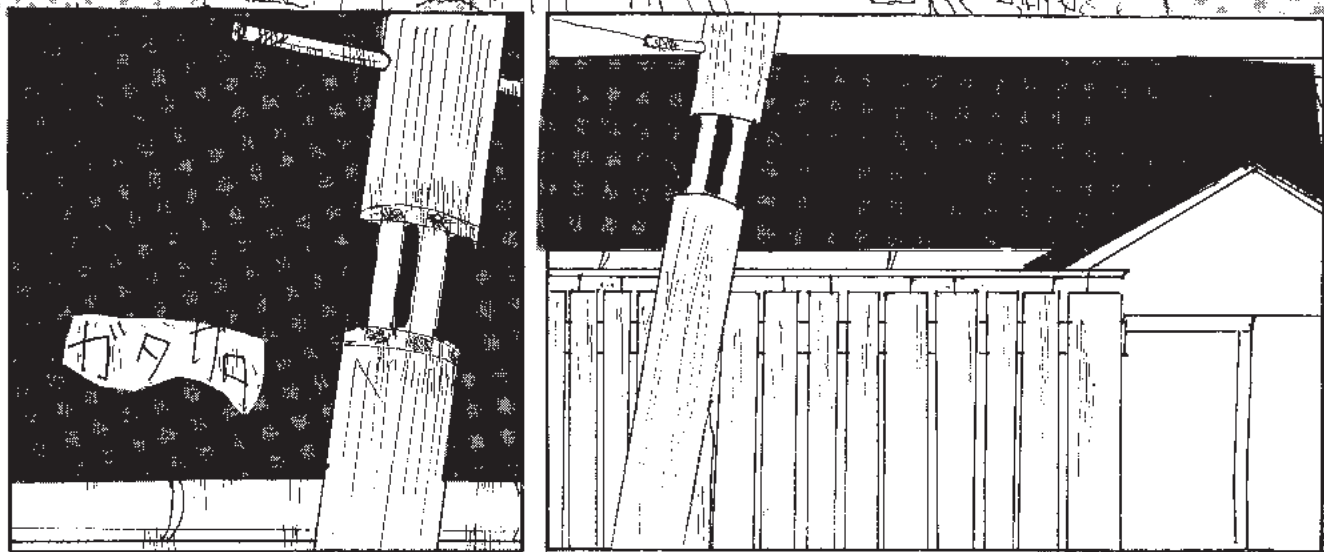
◆四国防災八十八話 第四十話より

『弟のおかげ』

教訓…地震後は津波に対し一刻も早く着の身着のまままで逃げることに

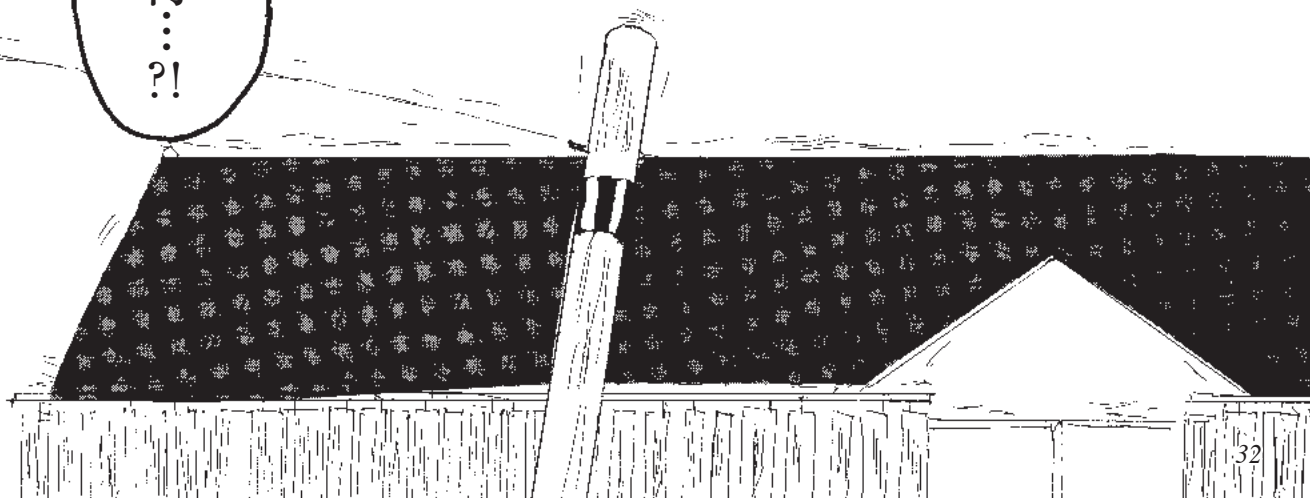
昭和21年

私、サチコは宇佐という町に住んでいました



ゴゴゴゴゴ

え、何…?!



…じ、地震だ

ガタガタ

ガタガタ

とにかく、すでに
すごい揺れでした

うわーん
お母さん

サチコ
当時21歳

えっと…
こういう時…

2人とも
早く!!

タカシ?

何してるの!?

タカシ
サチコの弟

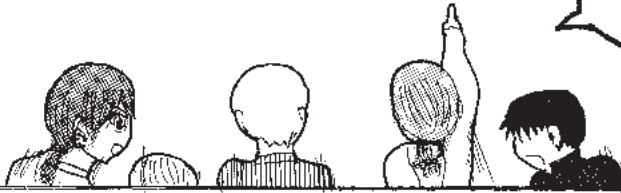
…いつのまに?

おじいちゃんとおばあちゃんはまだもう出たよ

ゴゴッ...

とにかくあの空地へ
避難しましょう

みんな
急いで!!



みんな
ちゃんというる?

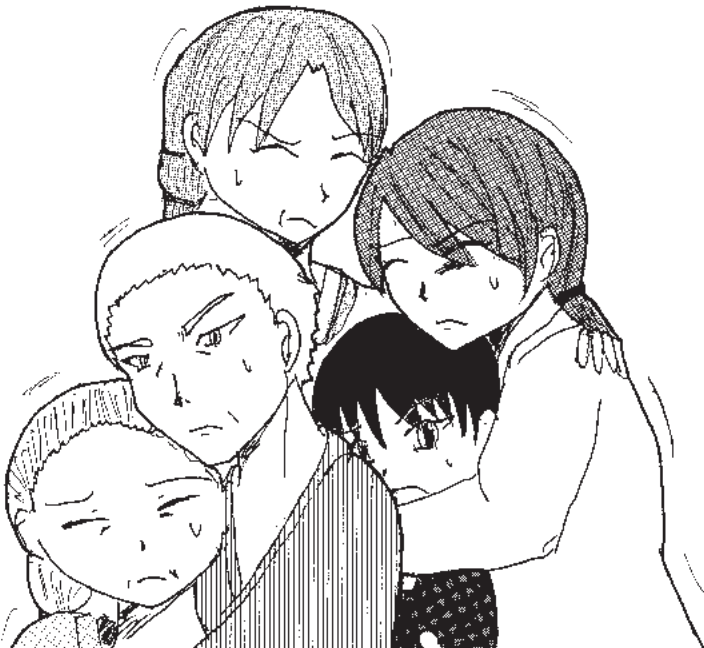
いるよ

みんな、できるだけ
固まって離れちゃだめよ

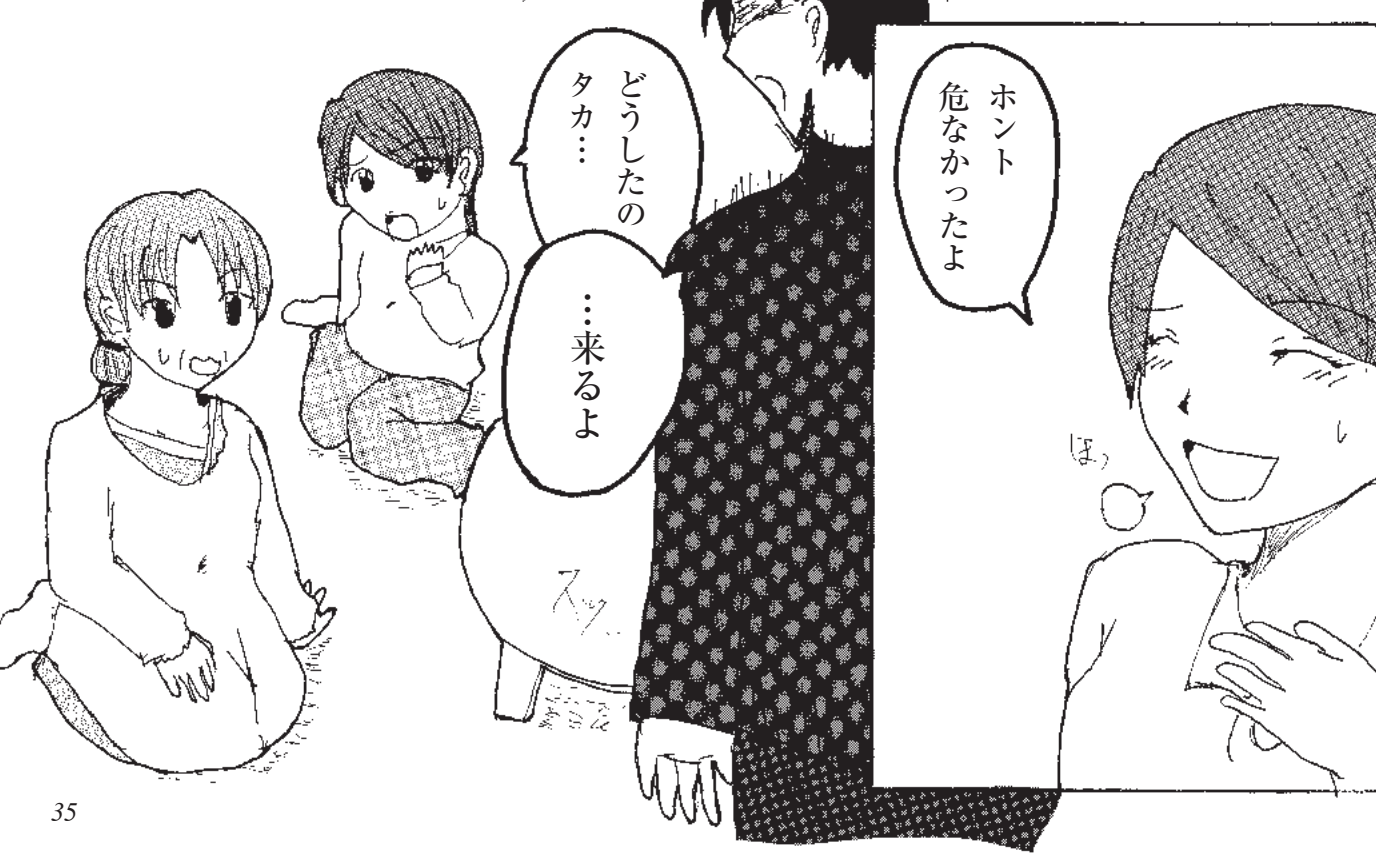
ガタガタ

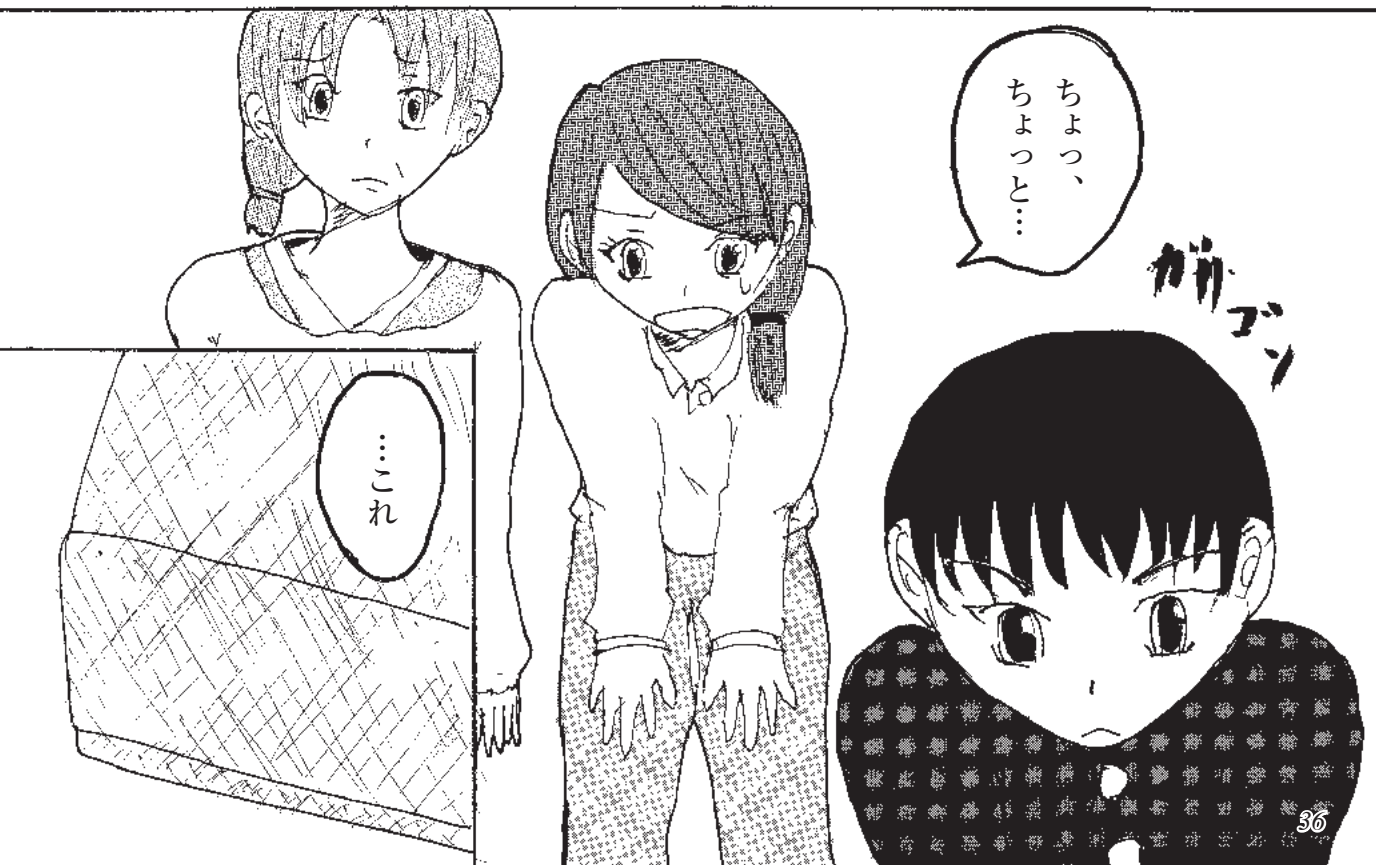
家族全員支えあって

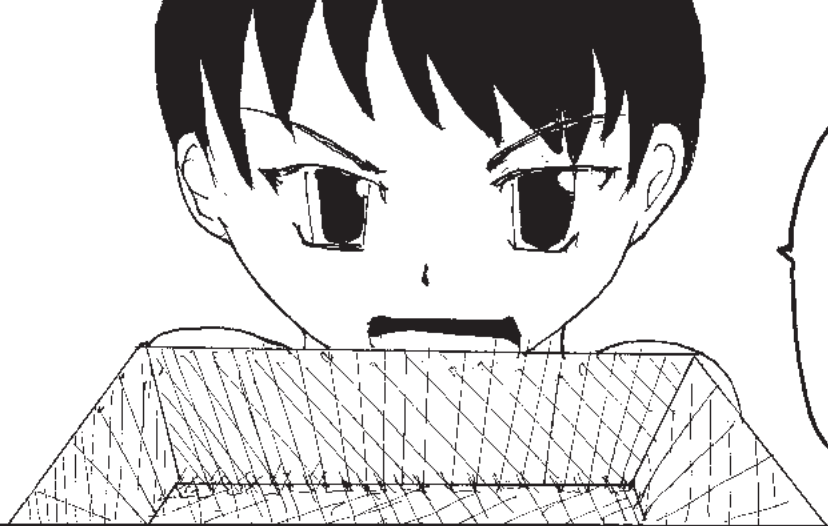
必死に揺れに耐えて
地震をやり過ごしました



…やがて揺れも
治まり



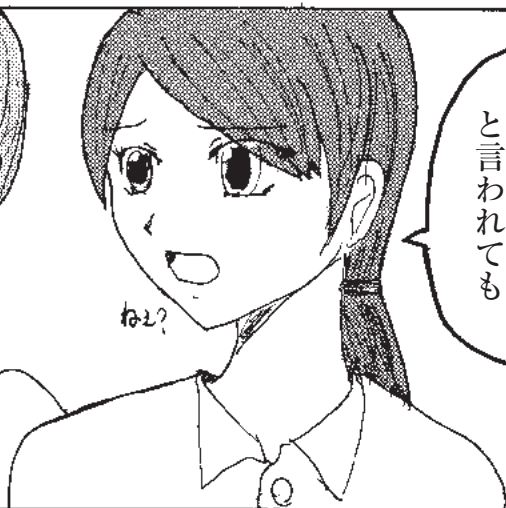




早くこの中に
大事なものを
入れて



…そうねえ…



「大事なもの」
と言われても

ねえ?



10分後

ブギッ



とりあえず待ってみた

たまたま

ああ、
もういい！

とにかく
出る出る

…それで

「早く」…って
言ったよね

だって急に
「大事なもの」
って言

遅すぎ

じいちゃん、ばあちゃん
を見習いなさい

だから
いつのまに

とにかく
このまま出るよ

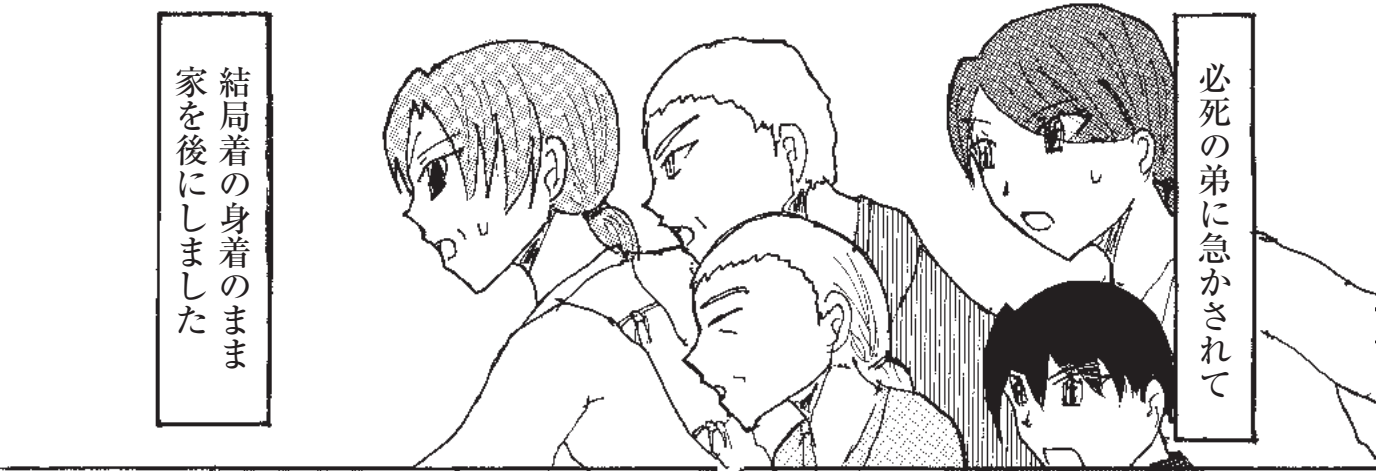
文句言わない

…はい

えい

結局着の身着のまま
家を後にしました

必死の弟に急かされて

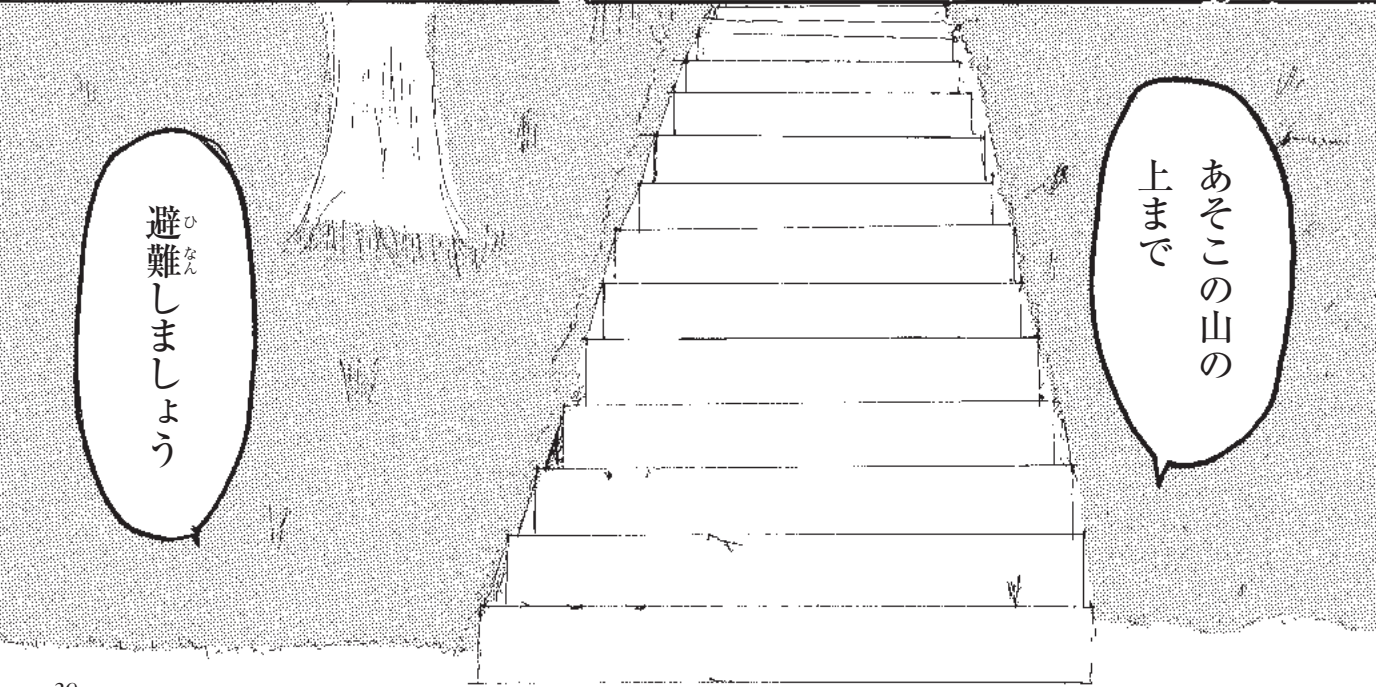


あったわ



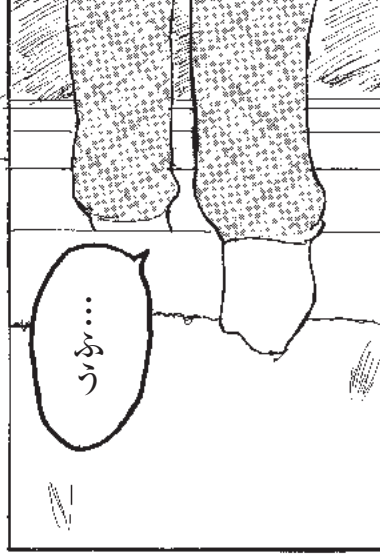
寒くない？

うん、
大丈夫



避難ひなんしましょう

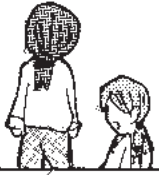
あそこの山の
上まで



...さう

近くの山への
避難は

弟の機転で
私たちが一番でした



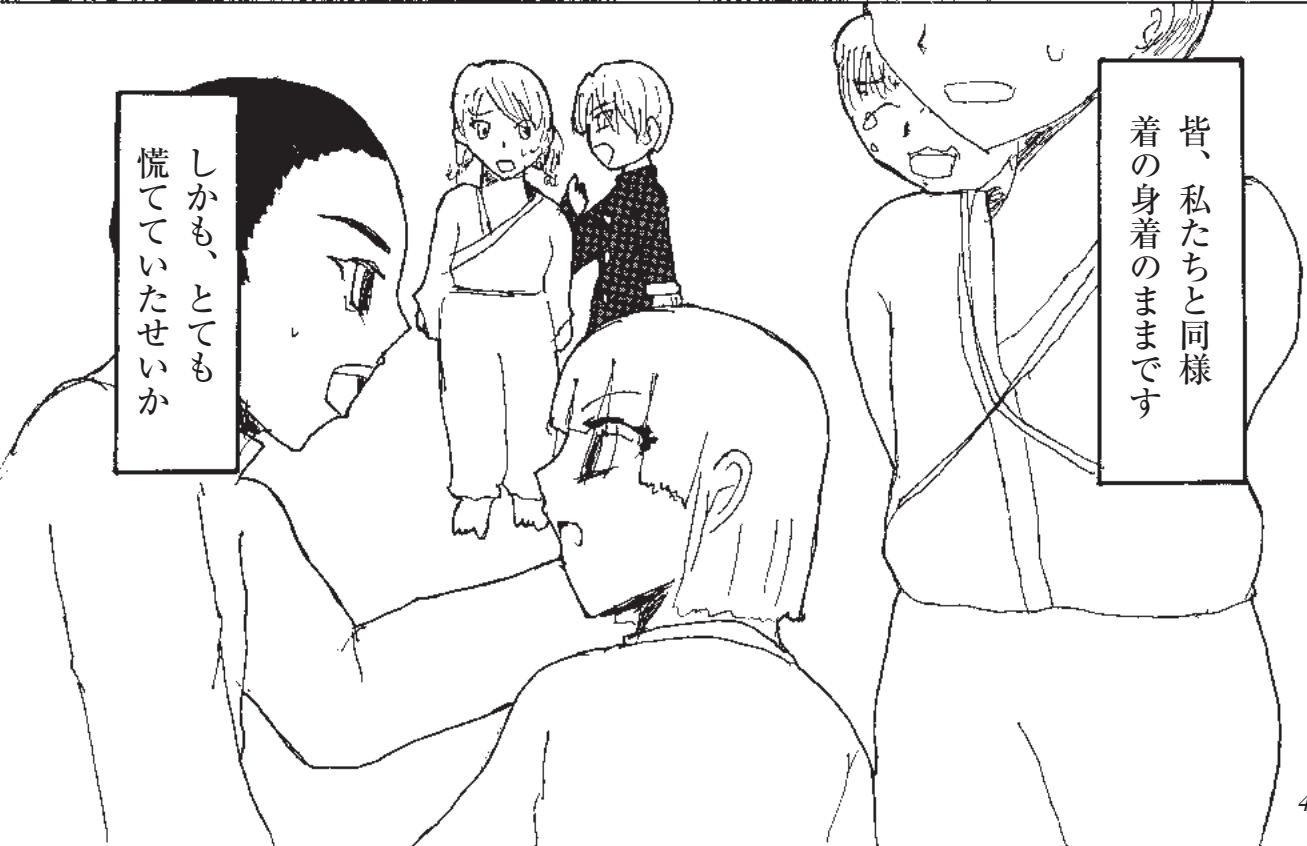
その後しばらくして
近所の人たちも

避難して来ました



皆、私たちと同様
着の身着のままです

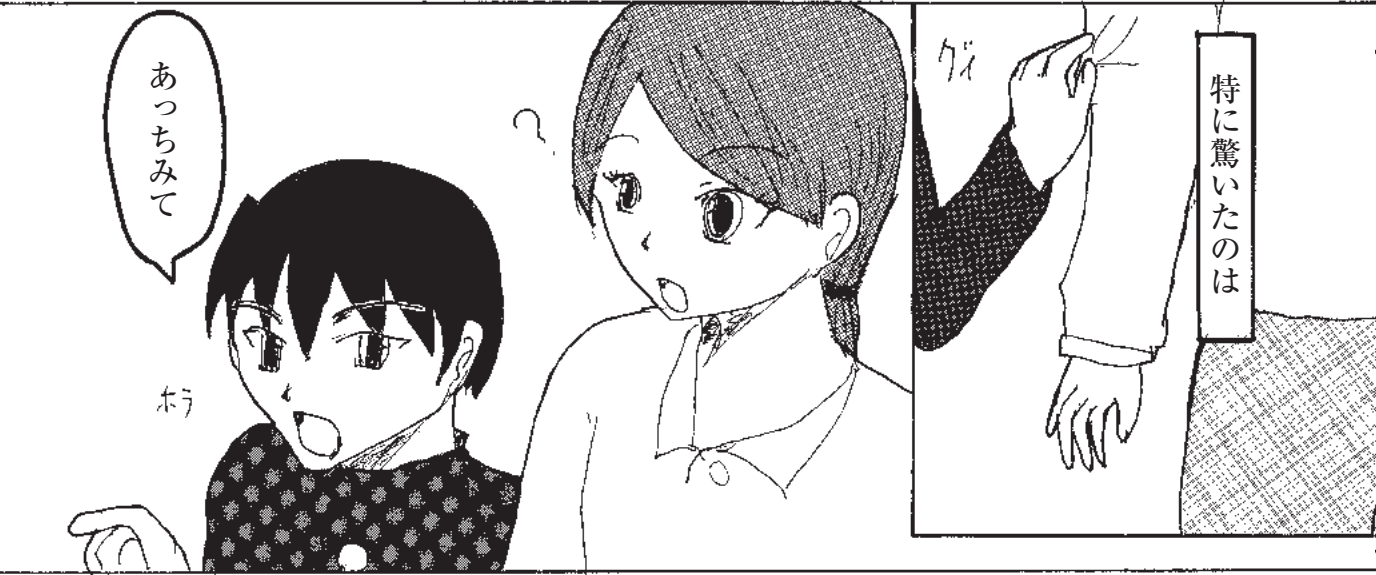
しかも、とても
慌てていたせい





左右の履き物の
違う人などそれぞれ

素足の人や

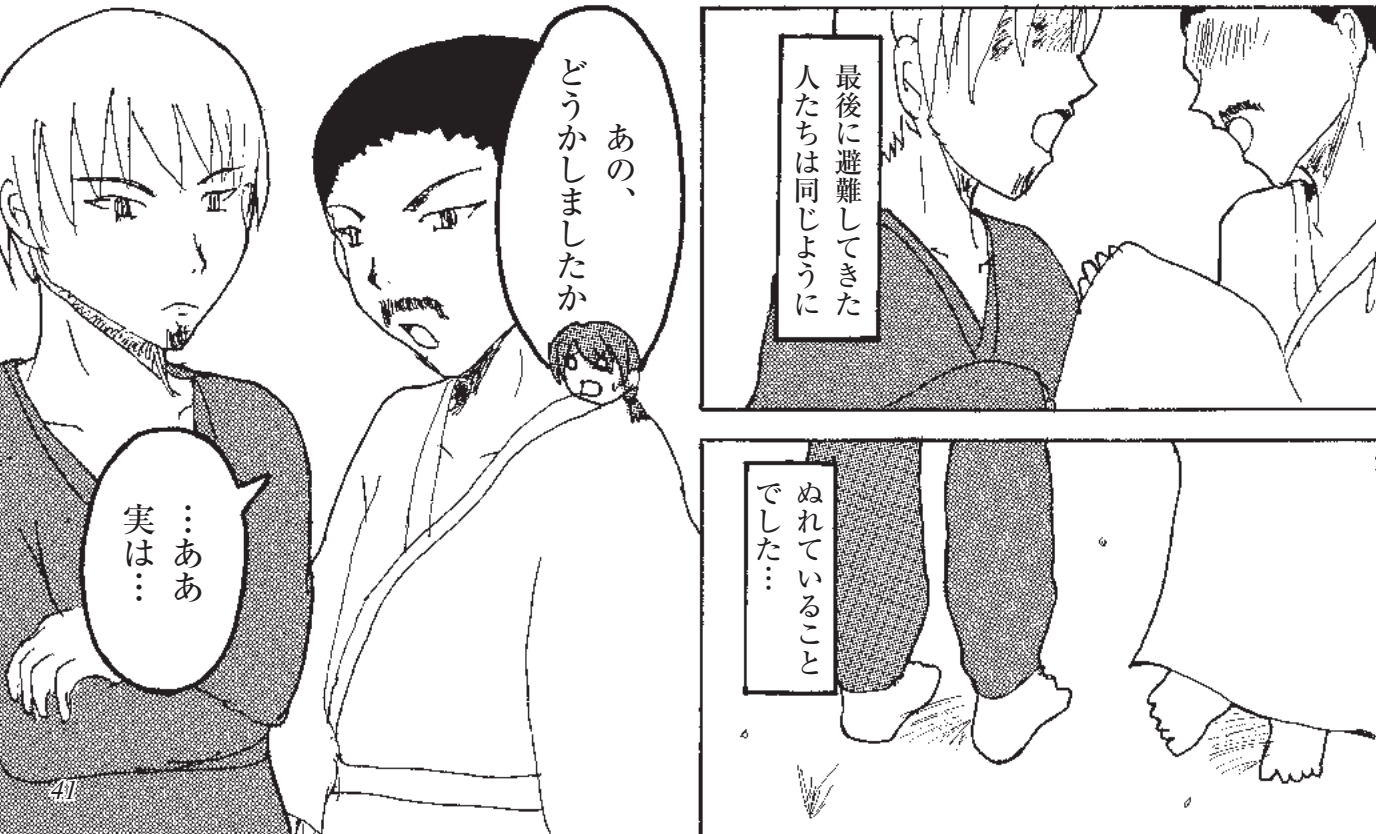


あっちみて

ホラ

特に驚いたのは

グッ



あの、
どうかしましたか

…ああ
実は…

最後に避難してきた
人たちは同じように

ぬれていること
でした…

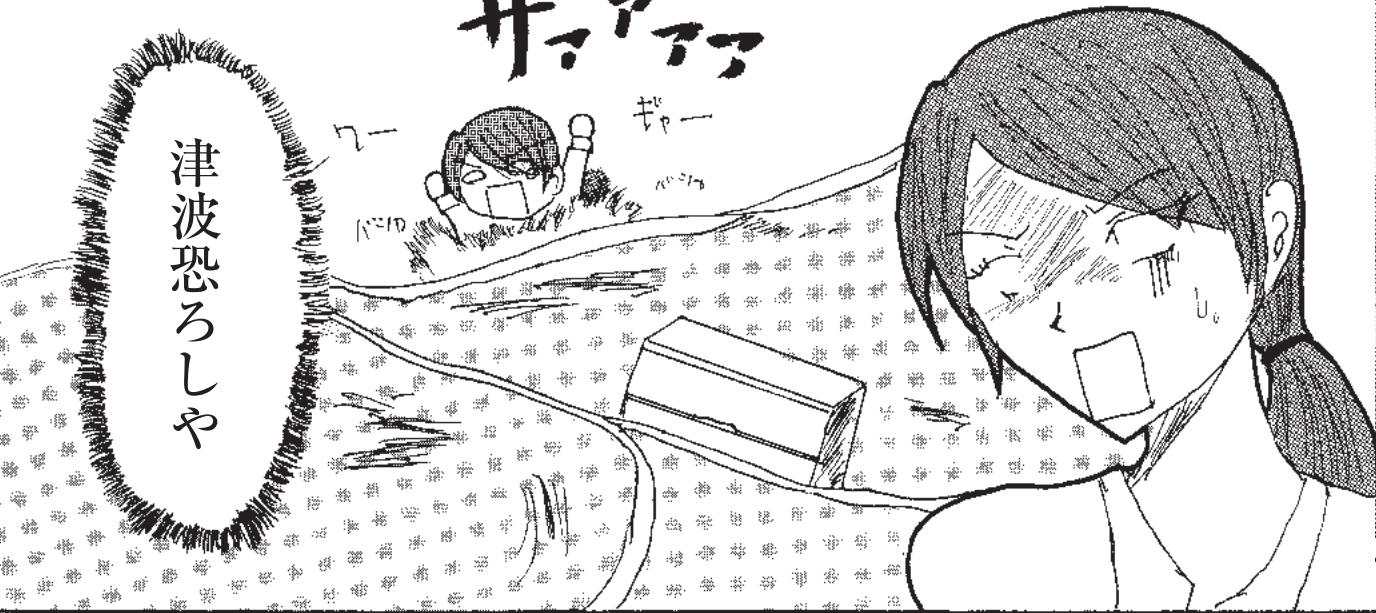
…ああ

津波に追いかけられた

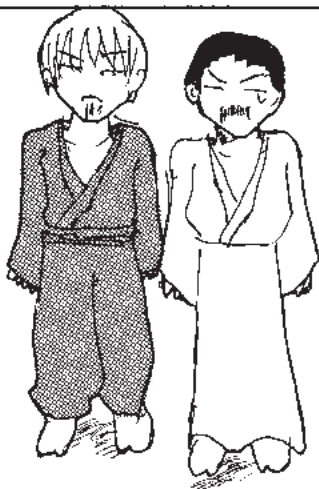


ガァァァ

津波恐ろしや

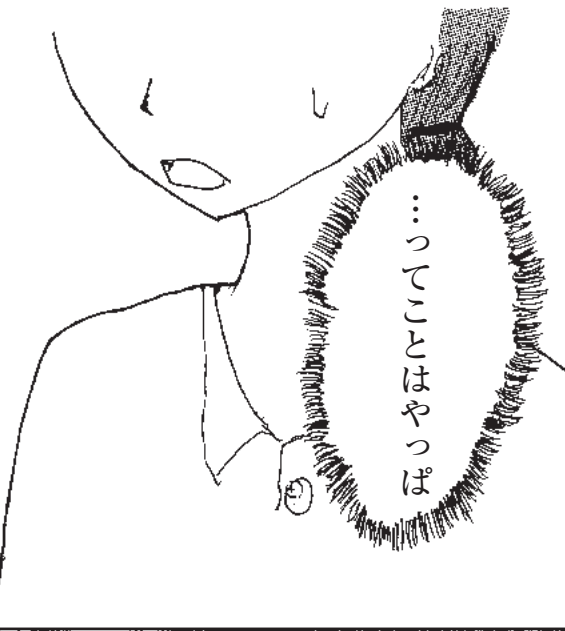
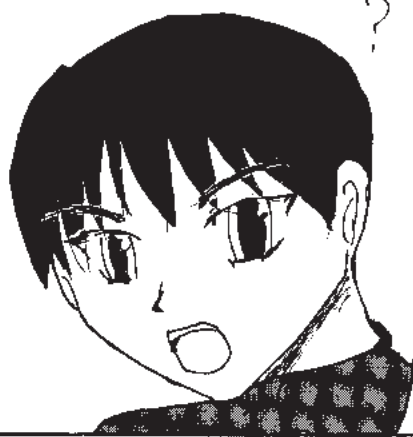


危機一髪でした
(いろんな意味で)



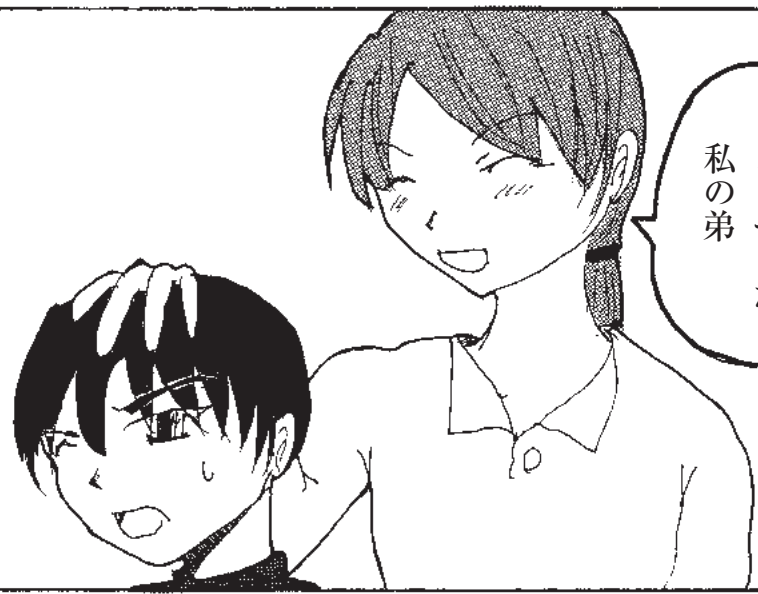
...まさに

弟がいなかったら
私たち…



…つてことはやっぱ

…え？
何？



よくやった
私の弟

今でも感謝と共に
私の心に残っています



弟は津波が治まった後も
家族を手助けしてくれました